

4. 取組みの視点と改善すべき課題

目指すべき公園像の実現に向けて、期待される機能と現状のギャップから、取組みの視点を整理し、改善すべき課題を抽出した。

[取組みの視点]

■ 最先端のレクリエーションで魅力を高める

最先端のレクリエーションプログラムを公園利用者が体感する機会を提供することで、日常的に刺激を受け、一日中、一年中楽しめる公園づくりを目指す。

■ 成長と幸せを感じられる機会を提供する

学びや発見、感動体験、多様な人との交流、自己表現、快適な環境で働くといった多様なニーズに応える施設や機能を導入し、誰もが成長や幸福を感じる場を創出する。

■ 心地よく過ごせる空間を提供する

リラックスして時間が過ごせる広場や散策が楽しめる樹林地、水辺の風景を眺めながら静かにゆったりと寛げる空間、美しい風景を眺めながらの飲食など、公園本来の目的である憩いの場を提供する。

■ 誰もが安心して楽しめる公園をつくる

誰もがスムーズにアクセスでき、公園内を安全かつ円滑に移動し、施設を快適に利用できるインクルーシブな環境を創出する。

■ みどりの機能を守り高める

広大な樹林や広場、水辺など変化に富んだ水と緑の連続性を守り、太閤山ランドとその周辺を含めた生物多様性を保全するとともに、雨水の貯留や浸透、水質改善、災害時の避難場所の確保など、グリーンインフラとしての多機能性を最大限発揮する。

■ 地域とつながり地域を元気にする

地元自治会、活動団体、地域の企業、教育機関、観光協会等の多様な主体の事業やアイデアを公園運営に活かす仕組みをつくることにより、地域と一体となったにぎわいづくりを進める。

■ 持続可能なパークマネジメントを推進する

民間のノウハウや資金を活用したパークマネジメントの推進により、利用者へのサービス向上や継続的な魅力づくりなど持続可能な運営を行う。

[改善すべき課題]

新たな魅力の付加

現在は子どもの利用をメインとした施設が多く、若者の利用が少ない傾向にある。また開設から約40年が経ち、ニーズに対応できていない施設も見られる。

そこで、新たなコンテンツ導入による多世代利用の推進や、超スマート社会（Society5.0）の推進が進められる現在、富山県を代表する県民公園として、ICTなどの先端技術を導入した、最先端の公園としていく必要がある。

みどりとオープンスペースの機能の発揮

県内最大の県立都市公園として、豊かな緑と水、公園施設を有しているが、資源を活かしきれていない部分も見受けられる。

良好な都市環境の形成や豊かな地域づくりなど、社会の課題に対応しつつ、公園の魅力や価値を向上させていくため、公園資源の多面的な活用、機能の発揮を進めていく必要がある。

憩い・交流空間の確保

開園以来、“県民のこころのふるさと”として、多くの人々の憩い・交流の空間となってきた。

コロナ禍において、身近な憩いの場の重要性が再認識される中、現在の空間を新たなライフスタイルにあった形に磨き上げ、魅力的な憩いや交流の空間を提供する必要がある。

誰もが使いやすい環境の確保

バリアフリー法が施行されて以降、公園にも多機能トイレなどのユニバーサルデザインが取り入れられるようになり、誰もが使いやすい施設整備に取り組んできた。

SDGsの考えが浸透し、誰一人取り残さない社会づくりが進むなか、どんな人でも利用できる環境を提供する必要がある。